

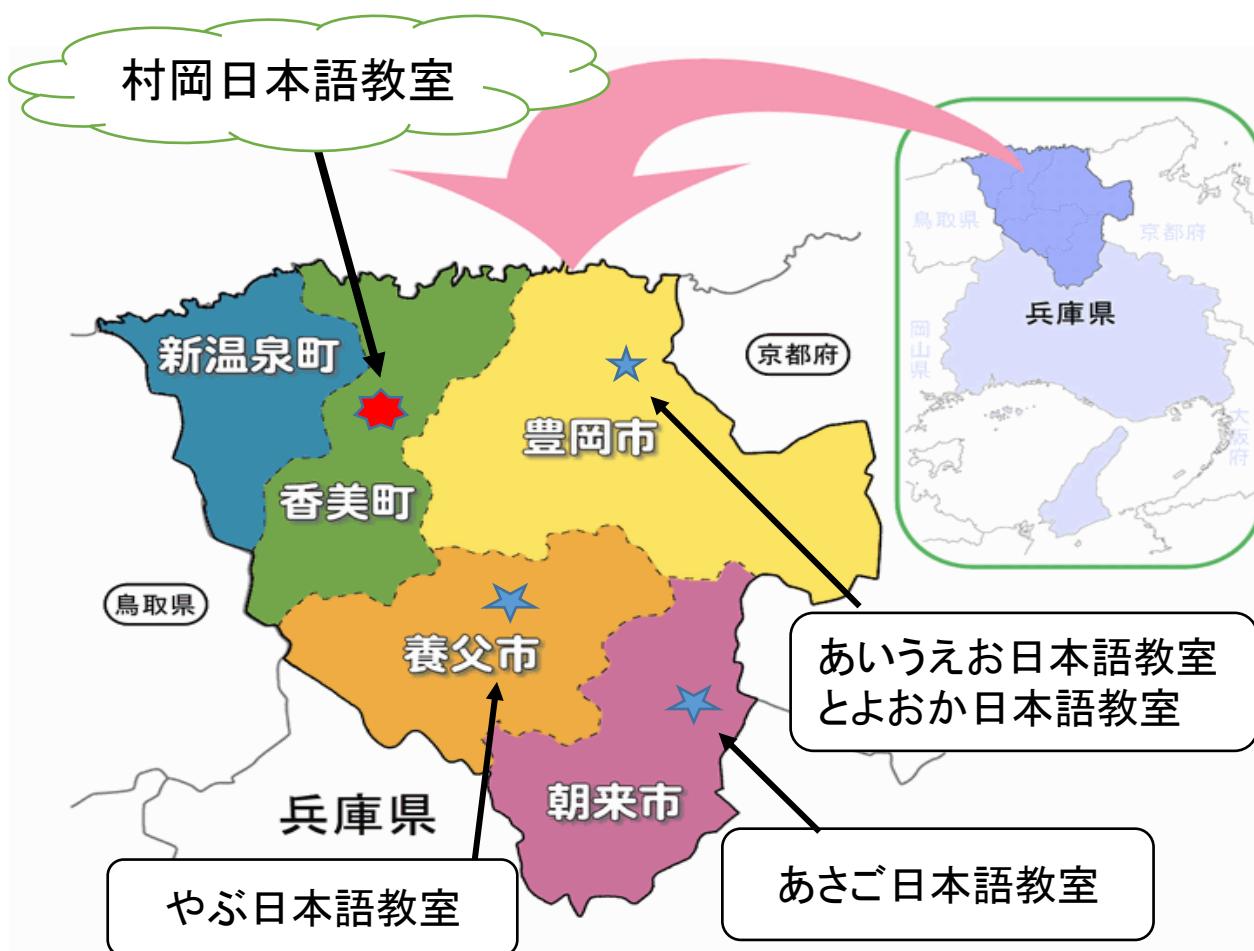
散住地域における 日本語教室からはじまる多文化共生のまちづくり

1. 事業概要

- 香美町村岡区で、日本語教室を初めて開催する(出張形式)。
- 散住している外国人をつなぎ、情報を発信し、楽しく集える居場所を作る。
- 行政や地域住民に多文化共生の知識と理解を深めてもらい、支援協力を呼びかける。

2. 但馬地域の現状

- 10年前の大規模な市町合併により、1市18町が、3市2町になった。
- 兵庫県の最北部に位置し、面積は県全体の約4分の1を占め、東京都の総面積に匹敵する広大な地域である。(総人口約180,000人)
- 全般に山地が多く(83%)、1,000m級の山々が連なり、平地は豊岡盆地など一部に限られる。
- 但馬地域を車で移動する場合、端から端まで約3時間かかる。豊岡市は、兵庫県内で一番大きい面積になり、端から端まで車で約1時間かかる。
- 人口が昭和25年をピークに減少し続け、過疎化が進んでいる。
- 少子化、若者の流出などにより高齢化が進み、高齢化率は30%と県平均の22.4%を上回る。



但馬地域の在住外国人数 (単位:人)

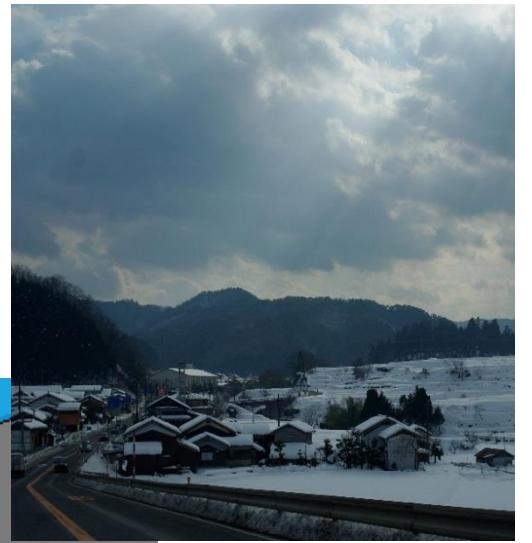
	日本人	外国人	割合
豊岡市	84,898	511	0.6%
香美町	19,429	103	0.5%
養父市	25,648	109	0.4%
朝来市	32,360	187	0.6%
新温泉町	15,810	94	0.6%

(日本に帰化したひとや日本生まれの外国にルーツを持つ子どもは含まない)

3. 村岡地域の課題



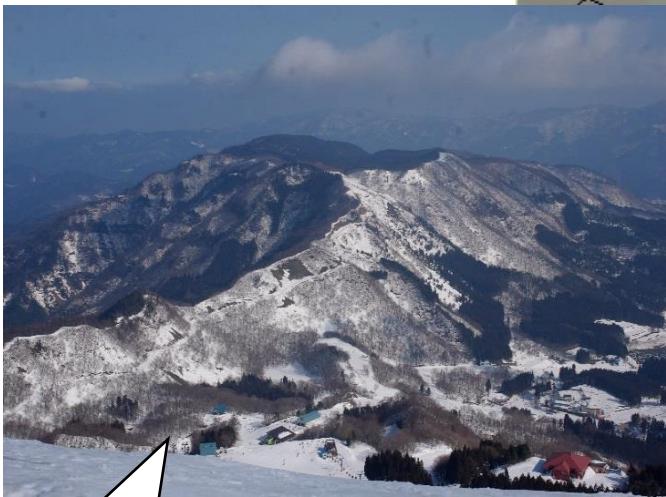
但馬地域で、香美町と新温泉町には日本語教室がない。村岡から豊岡教室までは、車で約1時間、バスと電車では往復3時間30分(往復2,620円)かかるので、継続して通うのはとても難しい。



香美町は、3つの町が1つになったため、それぞれの地域が離れており、孤立しやすい。



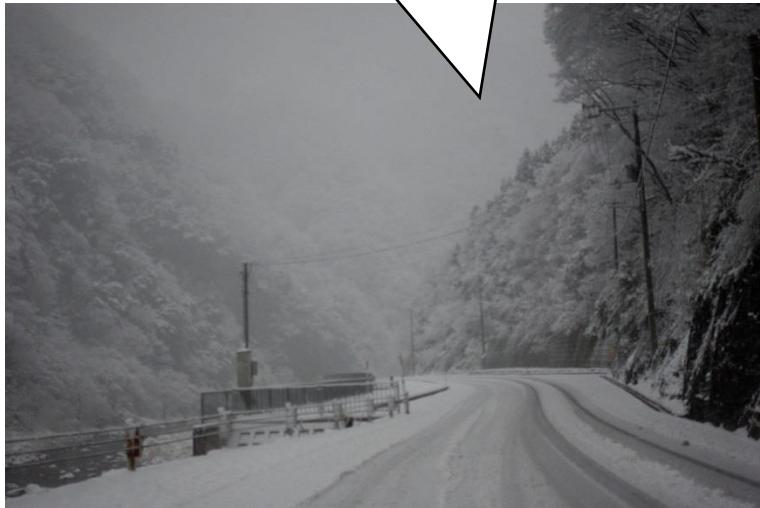
公共の交通機関が少なく、とても不便。電車は、一路線しかなく本数も少ない。村岡から最寄駅まで、バスで1時間かかる。バスも便数がとても少ない。



生活に車が欠かせないが、日本語がわからないので免許が取れない。豪雪地帯で、冬は外出が難しくなる。



教室に通うのに夫の送迎が不可欠である。冬はスキー場の仕事などで夫が忙しく、送迎が難しくなる。



少子高齢化が進み、地域コミュニティが弱体化している。国際結婚が増加している。夫の親の介護なども問題になっている。



4. 村岡教室がはじまるまで

平成25年 6月

- 日本語学習希望者1名が『あいうえお』事務所に来所。日本語教室の開催を検討。
- 香美町役場に日本語教室の開催について相談。
回答→「今のところニーズがない」「行政としての支援は考えていない」
あいうえおの自主事業として日本語教室を開催する方向で検討。
- あいうえおの支援情報を得た地域住民の協力があり、公民館を無料で利用できるようになった。

平成25年 7月

- あいうえおの自主事業として、村岡日本語教室スタート
- 「学習希望者が多数いる」との情報があり、安定した支援ができるように文化庁委託事業2次募集に応募
⇒採択される。

平成25年 9月

- 香美町から人権講演会の依頼。テーマ「日本語教室からはじまる多文化共生のまちづくりを通して人権を考える」
- 行政や地域のひとにも在住外国人のこと、及び日本語教室のことを知ってもらうことができた。
- 講演会に来ていたひとからも、学習希望の問い合わせが多数あり、文化庁の委託事業としての村岡日本語教室開催の準備を進めた。

平成25年 10月

文化庁委託事業 村岡日本語教室スタート



▲村岡日本語教室スタート



▲説明会



▲村岡区人権講演会

5. 文化庁委託事業による村岡日本語教室開催

講座名称： 散住地域における生活者としての外国人のための出張日本語教室

目的・目標： 地元で無理なく継続して通える日本語教室を開催する。
家族や周りのひととの円滑なコミュニケーションのための日本語を身につける。
生活のための日本文化や習慣を学ぶ。
必要に応じて子育てに関する日本語や車の免許を取るための日本語など、
実生活に役に立つことを身につける。

使用した教材

リソース： みんなの日本語初級Ⅰ
「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム集

受講者数： 10名(ベトナム7名、中国2名、フィリピン1名)

開催場所： 村岡区中央公民館

開催時間： 午前9時～午前11時30分(全16回)

	開催日	参加人数	学習内容
1	平成25年10月27日	7人	自己紹介<文化庁31>、クラス説明会
2	平成25年11月3日	7人	名詞文・数字<初級I>1~3課、<文化庁8>買い物をしよう1
3	平成25年11月10日	6人	月日・時間・曜日など<初級I>4課
4	平成25年11月17日	6人	自分の行動について話す<初級I>5課
5	平成25年11月24日	5人	日本語の発音、<文化庁8>買い物をしよう2
6	平成25年12月1日	5人	手段・方法の「で」、やりもらい<初級I>7課
7	平成25年12月8日	5人	い形容詞・な形容詞<初級I>8課①
8	平成25年12月15日	5人	<初級I>8課②自分の国や今住んでいる町について説明する
9	平成25年12月22日	5人	<初級I>9課「好きです・きれいです・わかります・あります」
10	平成26年1月12日	5人	<文化庁34>住民としてのマナーを守る ごみに関係する語彙を学ぶ ごみの出し方や分別について、地元のルールを理解する
11	平成26年1月19日	5人	「～に、～がいます/あります」(存在)<初級I>10課
12	平成26年1月26日	5人	ものの数え方(助数詞)、時間の長さの言い方など <初級I>11課
13	平成26年2月2日	5人	形容詞の過去形「～かったです/～でした」比較「～より～」最上級 「～がいちばん～」<初級I>12課
14	平成26年2月9日	5人	希望「～たいです」「～がほしいです」「～へ～に行きます」 <初級I>13課
15	平成26年2月22日	5人	<文化庁05>事故に備え対応する、災害に備え対応する 事故や災害に関する言葉を学ぶ事故や事件にあった時の対処法 を理解する。(警察への通報の仕方や避難経路の確認など)
16	平成26年3月2日	5人	<文化庁01>「医療機関で治療を受ける、病気やけがに関する 言葉を学ぶ、多言語の翻訳をみながら理解し必要なものを覚える

(注) <文化庁>・・・「生活者としての外国人」に対する日本語教室の標準的カリキュラム
<初級I>・・・みんなの日本語初級I

教室運営のポイント

- 子どもがいたり、仕事があつたりして、家で勉強の時間が取れないひとが多いので、宿題はあまり出さなかった。
- 日本に来て6ヶ月のひとあれば、8年のひともあり、日本語レベルにバラつきがあつた。授業についていくのが難しいひとには、必要に応じてボランティアが個別でサポートした。
- ほとんどのひとがテキストを使って勉強するのは初めてだった。生活で役に立つ言葉や参考資料の見方などについて、最初に丁寧に説明した。
- 最後の30分をフリートークとし、学習者同士の交流や情報交換、生活に関する質問や相談にあてた。

6. 養成講座

文化庁事業としては実施していない。

※豊岡市の補助事業として日本語ボランティア養成講座を開催(全11回)

対 象:外国にルーツを持つひとに日本語を教えるボランティア活動を希望するひと

内 容:ボランティアの役割、みんなの日本語のテキストの使い方、授業のポイントなどを解説
授業見学、模擬授業など

7. 教材作成

近年、生活者としての外国人の増加に伴い、子どもを持つ母親が増加している。あいうえおにも生活相談や子育てに関する悩みが多く寄せられた。特に、「学校からの手紙が読めない、よくわからない」という声が多かった。そこで、翻訳ではなく日本語で必要な情報が読み取れるように、授業形式で練習するための教材を作成した。

教材タイトル: 「学校の手紙をよもう」

対 象: 地域で生活し、日本語支援を必要とする外国にルーツをもつひと

構 成: 本冊(13ページ)、資料1(学年便り)、資料2(公民館運動会)
本冊の語彙の翻訳(英語、中国語、タイ語、ベトナム語)

学校の手紙の難しいところ	教材のポイント
敬語表現、書き言葉、話し言葉など、文体が様々。	手紙に決まった形式があるものは、パターンやキーワードを覚え、重要なところをすぐに読み取れるようにした。
手紙ならではの季節のあいさつやお礼の言葉など、難しい表現が多い。	代表的なものを紹介し、わかりやすい日本語に直した。
形や絵として漢字を覚え、意味は理解しているが、正しい読み方がわからないまま読んでいる。	本冊、資料、語彙訳のすべての漢字にふりがなをつけた。
普段の生活ではあまり出てこない言葉が多い。	振り替え休日、集金、一括購入など、学校独特の言葉の意味をわかりやすく説明した。
毎日の細かいお知らせや地域性のある内容もあり、翻訳教材では対応しきれない。	手紙を読むことに慣れるように、資料は実際の手紙の内容をほとんど変更せずを使用した。
学校からの手紙に加え、公民館や教育委員会、市役所、警察からのお知らせなどいろいろあり、量が多い。	必要度の高いものとそうでないものを、自分で分けられるように、手紙の種類を紹介した。
日本語がわかっても、文化的な背景の違いによって、自国の学校にその言葉の概念がなく理解できない。	年中行事や年間のスケジュールなど、学校の文化を紹介し、理解できるようにした。
保健衛生、食育、防災、会計報告など、いろいろな分野の専門用語がたくさん出てくる。長く日本に住み、ある程度日本語が上手になったひとでも、わからない言葉がたくさんある。	語彙の翻訳を作成。実際に学校で1年間配られる手紙の中から、使用頻度が高いものや学校用語など、意味がわかりにくいものを重点的に選んだ。

8. 平成26年度 村岡日本語教室の取り組み



地域で支え、助け合い、ともに暮らす



